

片山遺跡 G 地点発掘調査概報

(県立南部高等学校々庭)

1983・8

和歌山県教育委員会

序

紀伊半島の西海岸にあたる南部川流域は、全国でも数少い銅鐸が6点も出土するなど弥生文化の一中心地として、その役割を果たしてきたところであります。

このたび、この南部川の河口付近に位置する県立南部高等学校の生徒集会室が新築されましたが、従来より同校およびその周辺には砂丘上の墓地として、弥生時代をはじめとする遺構・遺物が数多く確認されておりますので埋蔵文化財の事前調査を実施することにいたしました。

その結果、弥生時代・中世等の遺構・遺物が確認され、また昭和55年度の校内合併処理槽建設にともなうD地点の調査で埋めもどし保存処置を講じた方形周溝墓と同時期の方形周溝墓も検出され、非常に貴重な資料を得ることができました。

ここに発掘調査の概要を報告し、ひろく一般の活用に資したいと存じます。

最後にこの調査にご協力とご援助を賜りました関係各位に深く感謝の意を表し厚くお礼を申し上げます。

昭和58年 8 月

和歌山県教育委員会

教育長 高橋正司

例 言

1. この概報は和歌山県日高郡南部町芝 407 番地の県立南部高等学校昭和58年度生徒集会室新築工事に関する事前調査の概要報告である。
2. 発掘調査は社団法人和歌山県文化財研究会が県教育委員会の指導を得て昭和58年6月から8月にかけて実施した。
3. この調査には永光寛（県教育庁文化財課技師）が主としてあたり、川崎雅史・横畑彰信が補佐した。
4. 本遺跡の埋蔵文化財発掘調査の経過
 1. 片山遺跡 A 地点 昭和52年 町都市計画道路 南部町教育委員会
 2. " B 地点 昭和54年 南部高校々舎改築 和歌山県教育委員会
 3. " C 地点 昭和55年 " "
 4. " D 地点 " 南部高校合併処理場 "
 5. " E 地点 昭和56年 南部高校寄宿舎改築 "
 6. " F 地点 昭和57年 南部高校体育館新築 "

目 次

序 文	
例 言	
調 査	1
位 置 図	2

図版目次

図版第一	片山遺跡 A・B・C・D・G 関連位置図
" 第二	G 地点遺構全体図
" 第三	遺構写真(一) 1. 調査区全景 2. 方形周溝墓
" 第四	遺構写真(二) 1. SK-3 2. SK-4
" 第五	遺物出土状況(一) 1. SK-1 2. SK-1
" 第六	遺物出土状況(二) 1. 方形周溝墓周溝部北西コーナー付近 2. 方形周溝墓周溝部東辺
" 第七	土層写真・遺物実測図 1. 方形周溝墓周溝部北西コーナー土層 2. 遺物実測図

調 査

片山遺跡は、紀伊水道に臨む海岸線、南部川河口付近に発達した海岸砂丘上に位置する。海岸砂丘は、南部川と埴田川に挟まれた約1.6kmの弧状を呈し埴田側に低く北西方向に漸次高（海拔6～8m）くなってゆく。砂丘の中央部よりやや埴田側、国鉄南部駅南東300～400mのところを中心に広がる本遺跡は、過去6度にわたる発掘調査により、縄文時代末・弥生時代中期・古墳時代にわたる砂丘上の一大墓地群と理解されている。

今回の調査地点は、B・D地点の北東にあたり南部高校の東隅付近である。

この地は、すでに自転車置場・旧焼却炉などにより度かさなる掘りかえしが行なわれており、それにより遺構の規模が不明確なものもあり、またこの攪乱により遺構が消滅したところもあるかと考える。検出された遺構は、それぞれ表土下0.5～0.8mの深さに広がり海拔6.5～7mをはかる。

検出された遺構は、庄内期の方形周溝墓1基、弥生時代中期の溝状遺構（SD-1）1条、弥生時代中期の土壇墓（SK-1）と時期不詳の土壇（SK-3・4・5・6）4基である。

1、方形周溝墓 片山遺跡では3基目である。南辺の周溝部が未検出なため全容を明らかにしないが、周溝部を含む南北は13m以上（マウンド部10.2m以上）・東西17m以上（同13.4m）で周溝部は現存状態で幅2～2.5m・深さ0.3～0.7mである。中央部には南北に軸をもつ主体部（SK-2）がうがたれており、平面長楕円形で長軸2.17m・短軸1.60m・深さ0.34mを計る。この土壇内からの出土遺物は認められないが、周溝部より二重口縁部をもつ壺・鉄鏃等が出ており、出土地点は鉄鏃が北西コーナーであるが、その他は北東コーナー付近と東辺の周溝内に集中している。

2、SK-1 平面長楕円形を呈し断面舟底状をもつ弥生時代中期の土壇墓である。長軸1.60m以上・短軸1.17m・深さ0.31mを計測する。遺物は、完形の壺と体部上半を人為的にうち欠いた壺が出土している。この2点の土器はうち欠かれた壺が蓋の機能をはたす壺棺と考えられるが、両者の土器片は土壇内に飛散していた。

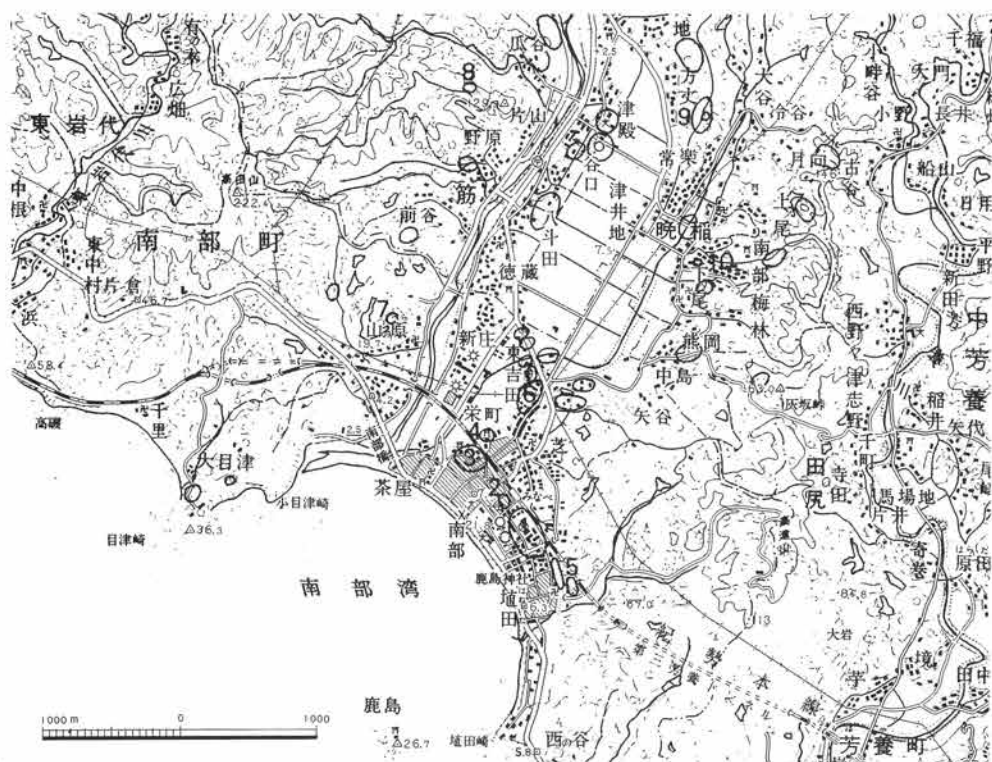
3、SK-3 平面楕円形で長軸2.17m・短軸0.63m以上・深さ0.15m以上で東西に軸をもつものであるが後世の攪乱により原形は保たれていない。

4、SK-4 平面形は攪乱により明確ではないが、SK-3と同様方形周溝墓の周溝部の埋土を切り込んでいる。長軸1.84m以上・短軸0.97m以上・深さ0.15mで軸を南北にとり瓦器片の出土を認める。

5、SK-5 平面形は攪乱等により不整形を呈しSK-6との切合い関係を認めるが、時期の前後関係は不詳。長軸1.32m以上・短軸0.88m以上・深さ0.07m。土師器片の出土を確認する。

6、SK-6 平面楕円形を呈する。長軸1.08m・短軸0.76m・深さ0.24mで瓦器片を出土。

7、SD-1 弧状を呈する溝状遺構で長さ3.69m・幅1.12m・深さ0.13mを計る。他の遺構とは



位置図

1. 片山遺跡 2. 片町遺跡 3. 高見遺跡 4. 芝古墳群 5. 埴田古墳群 6. 大塚遺跡
7. 城山古墳 8. 大久保山銅鐸出土地 9. 常楽銅鐸出土地 10. 下の尾銅鐸出土地

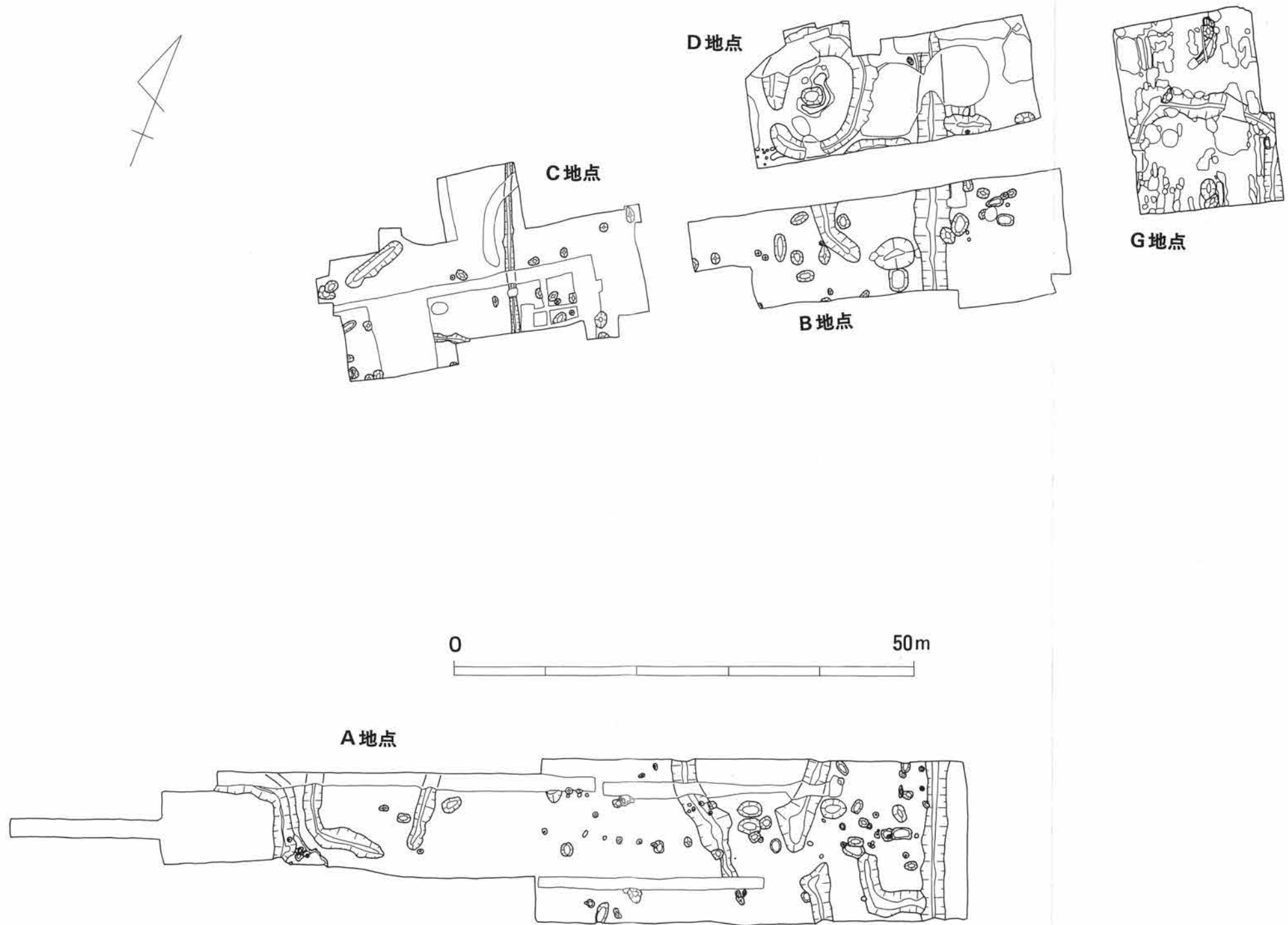
やや異った土分のない1～2mmの粗い粒子の砂を埋土にもち、上層から弥生時代中期の櫛描文を有する壺片が出土する。

今回の調査で本遺跡の調査面積は約3000㎡となり、縄文時代末の土器を出土する土壌から瓦器片を出土する土壌まで時代の幅はかなりひろく、検出された遺構も現在のところ、土壌（墓）75基・溝状遺構18条・方形周溝墓3基等の構成になった。

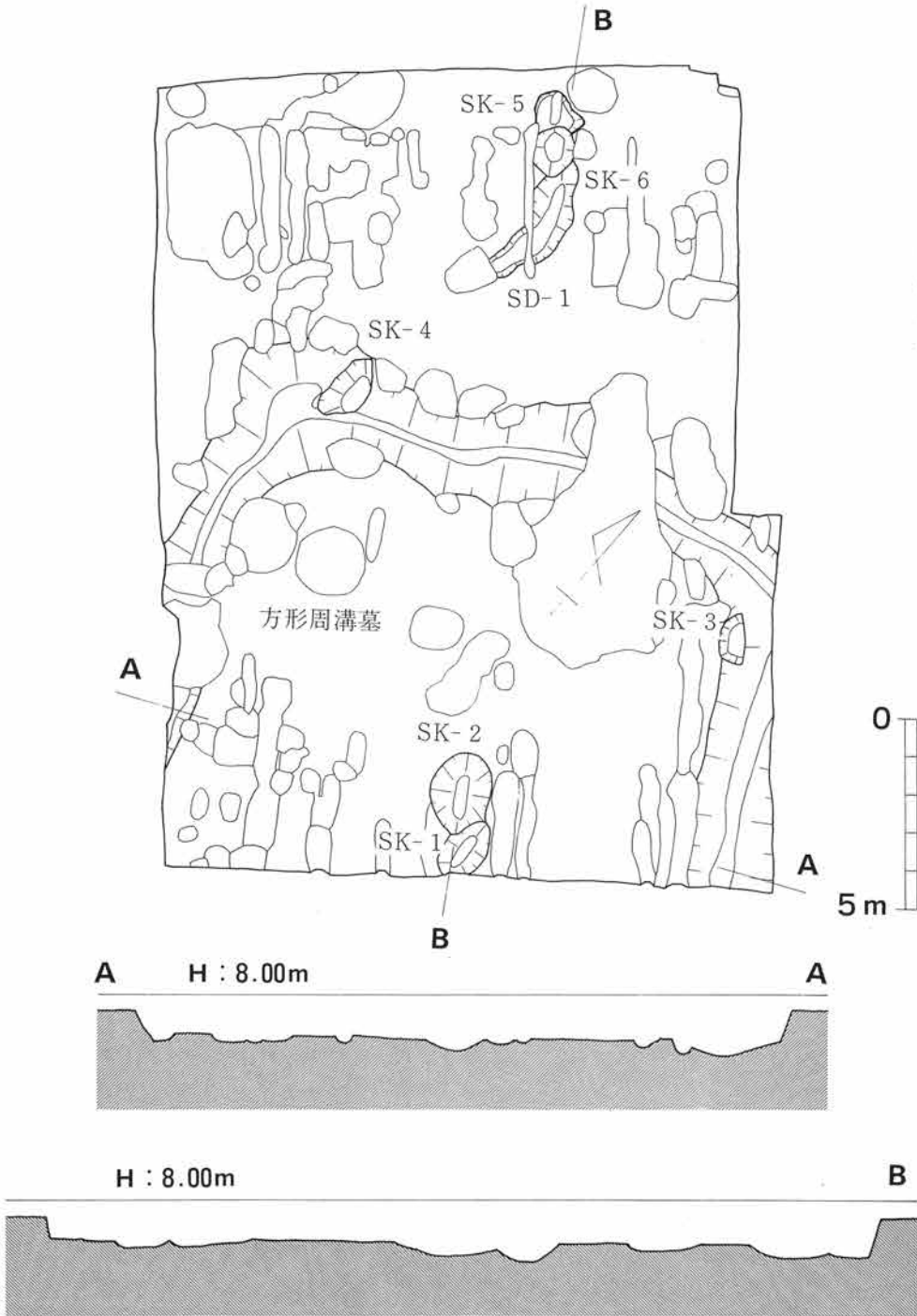
参考文献

1. 「紀伊日高郡南部町北道出土の弥生式土器」熊野路考古2（1962）
2. 「国鉄紀勢本線線増工事関連埋蔵文化財発掘調査概報」和歌山県教育委員会（1976）
3. 「南部町片山遺跡の調査」和歌山県埋蔵文化財情報No.9（1978）
4. 「片山遺跡B地点発掘調査概報」和歌山県教育委員会（1979）
5. 「片山遺跡C・D地点発掘調査概報」和歌山県教育委員会（1981）

図版第一 片山遺跡A・B・C・D・G関連位置図



図版第二 G地点遺構全体図

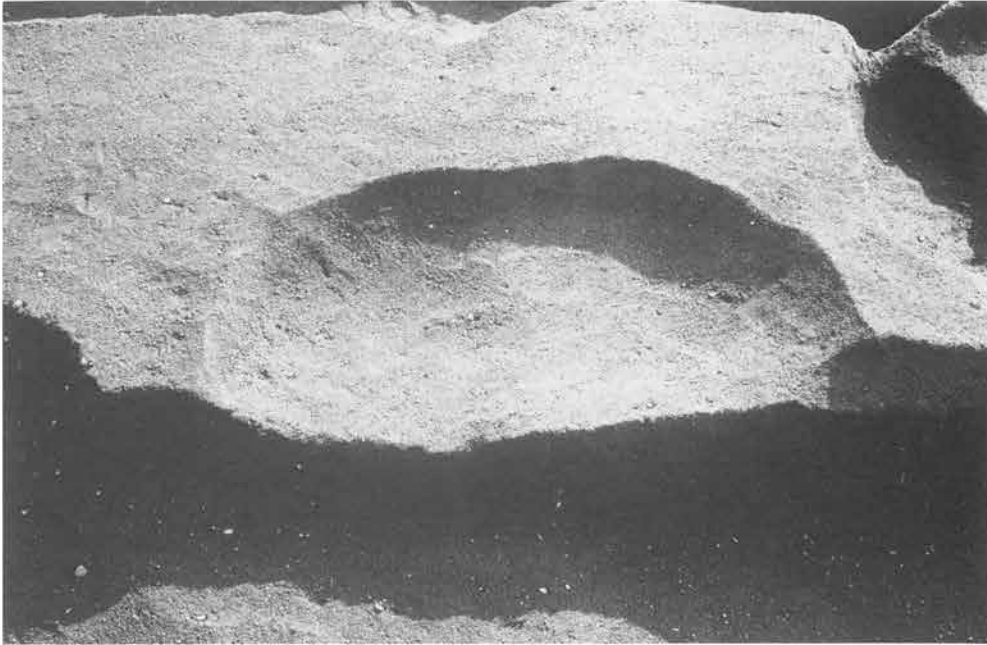




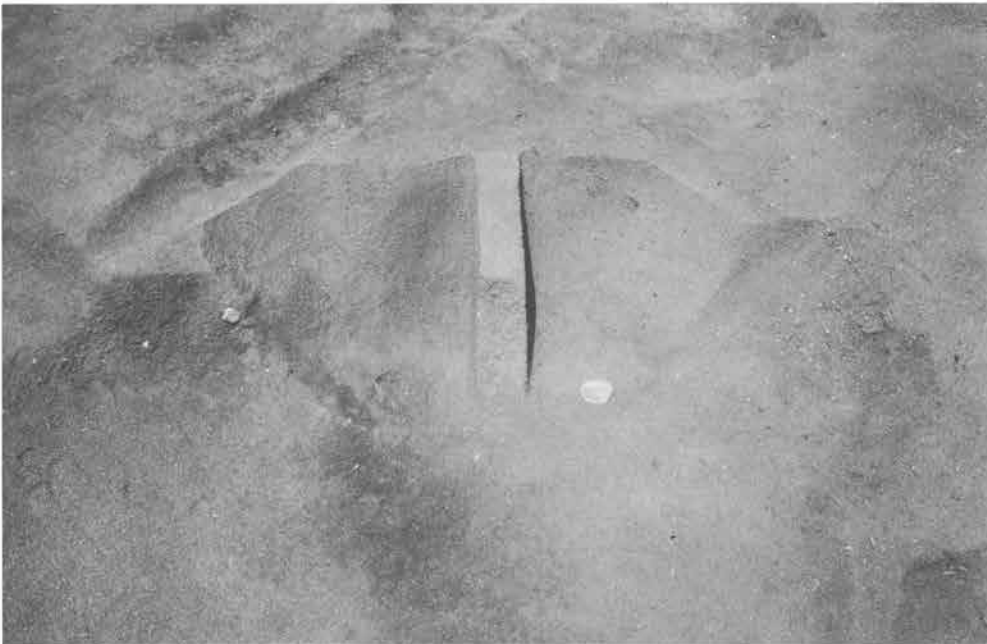
1. 調査区全景 (西から)



2. 方形周溝墓 (北から)



1. SK-3 (東から)



2. SK-4 (東から)



1. SK-1 (西から)



2. SK-1 (西から)



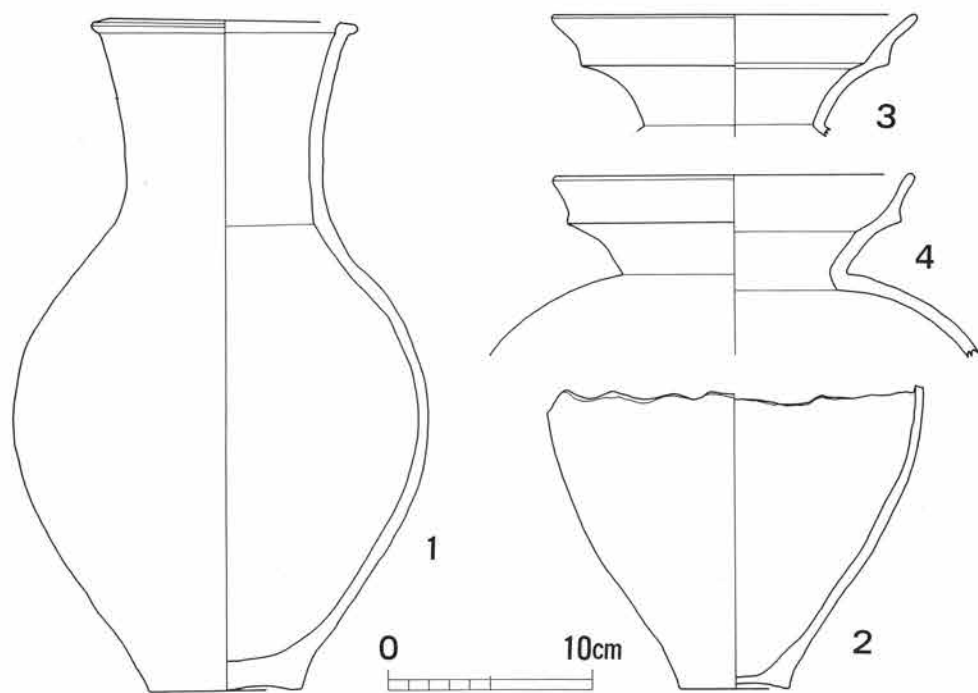
1. 方形周溝墓周溝部北西コーナー付近（西から）



2. 方形周溝墓周溝部東辺（西から）



1. 方形周溝墓周溝部北西コーナー土層



2. 遺物実測図

片山遺跡 G 地点発掘調査概報

(県立南部高等学校々庭)

昭和58年8月発行

発行 和歌山県教育委員会

印刷 邦 上 印 刷